

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192000089		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・鳩ヶ谷		
所在地	埼玉県川口市里396-1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のご利用者様に合わせた柔軟な対応を心掛けており、レクリエーションも季節を感じられるように計画、参加していただいています。  
ALSOKあんしん体操、いきいきリズム体操はDVDを見ながら午前午後行い、N6Aエクササイズや食前、口腔体操を毎日の日課とし、職員オリジナルの体操も含め行っています。  
季節の壁飾りは、ご利用者様と一緒に作り、折り紙等ご利用者様の得意なことを取り入れて作るようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和3年10月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

埼玉高速鉄道埼玉スタジアム線鳩ヶ谷駅より徒歩約13分に位置する、開設10年目となる2ユニット定員18名のグループホームである。人事異動により、ホーム長や職員の入れ替わりがあったが、訪問調査時に入居者の穏やかな表情が確認でき、フロアで過ごされている様子などから、組織的な運営体制が整備されていることが伺えた。コロナ禍により、地域との交流が制限されており、現在も継続されているため、面会はガラス越しでの対応となっており、訪問面会は減少している。そのため、ブログやお便りなどでホームでの生活や行事の様子を頻繁に行い、外に向け積極的な発信をしている。従前は外出支援を頻繁に行っていたが、現在は近隣を散歩し、外気浴を行う程度となっているため、職員一同、早期に外出やレクリエーションが再開できることを待ち望んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく暮らす第2の我が家」の理念を職員一同で共有し、楽しい暮らしを意識して毎日のケアやレクリエーションを行うように心がけている	理念はフロアごとに掲示をしている。新しい職員には事あるごとに理念を見るように指導をし、理解を促している。開所後10年の節目となるので理念の見直しを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時は近所の方と挨拶を交わしている	地域の自治会に加入しており、回覧板により地域の情報を入手している。天気の良い日には近隣を散歩し、近所の方と挨拶を交わしている。コロナ禍の影響もあるが、歩行機能が低下されている方も増え、散歩の頻度が少なくなっている。	現在、コロナ禍により地域との交流が困難になっているが、収束後は地域との交流を再開し、積極的な情報発信が行われることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事によっては近所の方にも参加の声をかけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事と家族会を同日に行い参加しやすいようにし、意見をいただいている	運営推進会議は年6回実施している。コロナ禍により、外部からの参加者は自粛して頂き、行事に合わせて内部(入居者・職員)による運営会議を行い、会議録を行政や家族に報告している。意見などは書面で募っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの研修、案内などはインターネットで閲覧できるようになっている	市とはPCR検査などコロナに関することや台風などの災害情報をメールで確認し合っている。骨折等の事故があった場合は事故報告を提出しているが、今年度は事故事例は無い。外部評価の結果を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回以上身体拘束廃止委員会を開催。年に2回身体拘束等の適正化のための研修を開催、話し合いを行っている	法人本部より3ヵ月毎に課題が送られてきて、それを基に研修を行っている。ホームでの事例に沿って話し合い、どのようなことが身体拘束となるのかを確認し、安全と思われることであっても拘束になるということを職員同志で理解の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回高齢者虐待防止委員会、年に1回研修を開催、話し合いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の案内は閲覧できるようにし、また参加しやすいようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項を口頭で説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などでも意見をお聞きしたりして反映できるように努めている	コロナにより面会機会が減少しているため、ケアプラン作成時などの際には家族に詳しく現況を報告し、意見を聞くようにしている。意見の内容に応じ対応しており、本部マネージャーに報告し、運営に反映するケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で事業所長会議の内容を伝え、職員の意見も聞くようにしている	職員会議で意見を聞くようにしている。更に個人面談を年2回、設けており、個々の意見や提案に対する対応を適宜行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価やヒヤリングを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部の研修に参加する機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の交流会、地域のネットワーク作りに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査訪問から情報収集し、サービス、関係作りに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画作成時に意見確認し、把握するようになっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向確認で求めていることを把握できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる家事手伝い等して頂き、協力して生活している実感を持って頂けるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる協力は家族で行って頂くようになっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外泊は制限せず支援頂いている 現在は、コロナの状況により制限されている	コロナにより馴染みの方の面会は制限をさせて頂いているが、電話などの取次ぎの支援を行って関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活において関りを支えあえるよう声かけ支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて経過をフォローするよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向確認書にて確認している 意思疎通が困難な方は生活を通じて判断させて頂いています	入居前の実態調査で思いや意向の把握をしており、ケアプランの見直しに合わせて、その都度、確認をしている。意思疎通が困難な方は、表情の観察、笑顔やうなずきの様子を見ながら思いの吸上げを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査訪問から生活歴や生活環境について把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報と入居後の実態にて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議でモニタリングを行い、ご本人様の意向に沿うよう、変更点について意見を出し合い話し合いをしている	入居前の調査時に意向を確認し、暫定の計画書を作成し、1か月後にモニタリングを行い計画を決定している。居室担当制を行っており担当者が意向の確認をしている。6か月毎に定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書のサービスの内容にナンバリングし、生活記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月毎にモニタリングし、新しいニーズに対応していくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事面では希望により出前をとったり、おやつ作りをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療契約を結び、体調管理が継続的に行えるよう支援している	入居後、ホームと契約をしている訪問診療医がかかりつけ医となることを説明している。希望の医療機関への受診支援は行っており、通院は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結び、相談や指示を受け対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供により安心して生活できるよう対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り契約では主治医と相談、ご家族様を含め話し合い、情報を共有し、支援に取り組んでいる	看取りまでの対応を行っており、その際には契約を交わし、主治医、家族と話し合い、協力しながら対応をしている。現在、看取り契約の対象者はいないが、過去に看取りの事例はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、水害を想定した避難訓練、備蓄品の整備にも努めている	年2回、避難訓練を行っており、5月には火災を想定で実施し、11月には水害を想定し、エレベーターを使用せず、1階から2階へ避難することを計画している。入居者18名の3日分の食料を備蓄している。災害における地域住民の協力体制は築けていない。	年2回、訓練の計画を立て実行している点は評価できるものの、いつ起こるかわからない災害時に地域の協力体制を築くことが望まれており、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様にあった声かけ、ご利用者様を尊重した対応ができるように努めている	トイレ誘導の際にはやさしく声掛けしたり、車いすですドアが閉まらない場合はカーテン対応をする等の配慮をしている。入浴時は同性介助を徹底し、排泄介護で拒否などがある場合は、担当を交換するなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の状態、性格に合わせて意思を尊重できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個々のペースに合わせ、できるだけ希望に沿って過ごして頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んで頂き、女性は化粧水など管理できる状態であれば居室保管している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の献立発表や毎日の食器拭きは交代で行って頂いている 時には出前をとったり、好みに合わせたメニューと一緒に手作りして喜んで頂いている	今年10月に食事の提供方法が変更となり、調理済みチルド食材を用いて提供することになったが、概ね好評である。ホームで発信しているブログでは楽しそうにおやつ作りをする入居者の様子が確認できる。食器拭きなど出来ることを手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量が不足しないよう声かけしたり、家族に好きな飲み物を用意して頂く等の対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけを行い、介助が必要な方は対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけ介助を行っている	トイレでの排泄を基本とし、定期的な声掛け誘導を行っている。個々の状態に合わせて、布パンツ、紙パンツ、パット等の対応をしており、夜間帯のみポータブルトイレや紙オムツを使用し、安心して睡眠がとれるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に応じて水分摂取量アップや運動を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入る順番、湯温、タイミング等できる範囲で対応している	週2回、午後での入浴を基本にしているが、イベント等で午前に対応することもある。現在、入浴剤等を使用休止としているが、楽しみの一つとして再開していく予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午後に休息したり、就寝時間も状況に応じている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイル化し、常に確認できるようにしている 訪問診療時には症状の相談や変化を伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせて、できる範囲で家事手伝いをお願いしている 好きな歌やゲームも楽しめるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年春にはお花見ドライブを実施しているが今年度はコロナの影響で実施できなかった季節や天候に合わせて散歩や外気浴ができるよう努めている	現在、外出を控えており、ドライブも行っていないが、天気の良い日には玄関先での外気浴や近隣への散歩を行っている。コロナが収束したら、積極的に外出支援を行う予定であり、職員共に心待ちにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があればできる範囲で対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯を所持したり、手紙のやり取りはしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、トイレには良い香りがするよう芳香剤を設置し、共用の場には飾りで季節感を出すようにしている	居室入り口に敬老会でプレゼントされた壁飾りが飾っており、壁には大きく季節に合った貼り絵が飾ってあった。レクリエーションを兼ねて壁絵を作成し、飾り付けすることが入居者の楽しみにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は各人の相性を考えながら決め、会話が弾むよう工夫し、状況に応じて席替えをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により位牌や写真立て、ソファ等持ち込んでいる方もいる	居室内にはクローゼット、チェスト、洗面台、ベッド、寝具、カーテンが備え付けられている。その他、テレビや携帯電話が持ち込まれている。危険物以外は自由に本人の好きなものを持ち込んで頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレはわかりやすいように表示し、廊下等には障害物がないよう配慮している		

(別紙3(2))

事業所名 グループホームみんなの家・鳩ヶ谷

### 目標達成計画

作成日: 令和 3年 11月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍により地域との交流が困難になっている。	地域交流の再開時には、より積極的な交流ができるようにする。	地域の方へ行事等参加して頂くことで交流の機会を用意し、近隣の保育園とも交流を通して協力し合える関係を作っていくようにしたい。	12ヶ月
2	35	避難訓練について、年2回火災、水害を想定した訓練は行っているが、地域の方の協力は得られていない現状である。	状況に合わせて地域の方との交流の機会を作りながら、災害時の協力体制も築いていく。	避難訓練時にできるだけ参加していただけるようお願いしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

